49

# 銅梅花双鳥鏡
どうばいかそうちょうきょう

◇ 指定日　平成元年12月12日
◇ 所在地　川井
◇ 所有者　個人

銅梅花双鳥鏡は直径79㎜、重さ82gの銅鏡です。銅鏡は祭祀や婚礼の際に使用されたとされ、片面を磨いて鏡とし、もう片面は装飾が施されています。

装飾されている面の外側は縄状文と二重の隆起文があり、その内側の全体に梅花が施されています。中央には亀を模した紐を通すための亀鈕があり、亀鈕の上には一対の雀が描かれています。

同様の銅鏡には、梅の花の枝葉の描写もありますが、この銅鏡には確認できないことから15～16世紀のものと考えられています。

通常の銅鏡と比べて小さい事から、江戸時代まで受け継がれ伝承され、手鏡として用いられたと考えられています。

また、副葬品であったと伝承されており、全体的に赤く土が付着していました。